

令和7年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和7年4月15日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立第一日野小学校

1 各教科の定着状況についての概要

全学年を通して見ると、「書くこと」において課題があることが伺える。学年ごとに明確になった課題に取り組むとともに、「書くこと」の領域については学年のつながりを意識した指導をするために、学校全体として授業内で「書くこと」を取り入れた指導を行っていく必要がある。

2 具体的な本校の課題

	2年	3年	4年	5年	6年
言葉の特徴や使い方に関する事項	既習漢字を正しく書くこと	既習漢字を正しく書くこと	既習漢字を正しく書いたり読んだりすること ローマ字で表記されたものを正しく読むこと		既習漢字を正しく書くこと
情報の扱い方に関する事項	共通・相違・事柄の順序を表す言葉の活用	文章全体から時系列を整理して情報を読み取ること			考えとそれを支える理由や事例など、乗法と情報との関係について理解すること
我が国の言語文化に関する事項					
話すこと 聞くこと	話し手の話に関心をもち、質問すること		話し手が伝えたいことの内容を捉えること		話し手の目的に応じて、話の内容を捉えること
書くこと	伝えたいことを明確にして文章を書くこと	条件がある作文を書くこと	自分の考えを明確にして文章を書くこと	文章を要約すること	文章全体の構成や展開を考えること 目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にして書くこと
読むこと	物語文の場面の様子から登場人物の行動を具体的に想像すること	説明文の要約や内容を大まかに捉えること			文章を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げること

3 課題の原因として考えられること

- 書くこと：記述問題は学力調査の最後の設問のため、時間内に終わらなかったり、条件を提示された作文に書き慣れていなかったりしたことが原因と考えられる。学校全体でタブレット端末ではなく、原稿用紙などで作文を書く機会を増やしたり、条件を提示した作文の仕方を指導したりする必要がある。

4 課題解決の方策

- 2年生…物語文の学習を通して、登場人物の行動や台詞から心情を想像する力を伸ばす。まずは行動や台詞に線を引くこと、登場人物のしたことを明確にしていく。また、定期的な日記を書く活動を通して、書き方を学ばせていく。作文指導の際には「～行以上書く」「必ず理由も書く」など、いくつか条件を与えて書かせるようにする。
- 3年生…漢字の指導として、既習事項も含めた漢字の復習を繰り返し、モジュールや国語の隙間時間で行う。また漢字の宿題やワークを定期的に取り組みせ、小テストなどで定着度をその都度確認していく。「読むこと」の課題解決として、文章全体から時系列を整理するための番号を書いたり、大事な文の横に線を引いたりする習慣を付けさせる。「書くこと」の課題解決として、日頃の授業内で条件を提示した作文の書き方に慣れるよう、例題を出したり書き方のポイントを指導したりするようにしていく。
- 4年生…漢字の定着度のばらつきを防ぐために、既習漢字を日頃から使うよう指導していく。ローマ字については、日常生活の中にあるローマ字表記のものを探したり、身の回りの物をローマ字で表現したりする活動、また iPad を用いたタイピング練習を取り入れていくようにする。
- 5年生…文章を書くことについて学ぶ時間を確保する。モジュールの時間や授業の時間の中で取り組んでいく。例えば、既習事項を活用して短文を書く、読んだ文章を要約して書く、条件付きの作文を書くなどの経験を積み重ね、文章を書く力や文章を要約する力を伸ばすようにする。
- 6年生…「書くこと」に関する課題への取り組みやすさを高めるために、日常的に「自分の言葉で表現する」場面を意識的に取り入れていく。文章を書く習慣を付ける。例えば、宿題として1行日記を付ける、国語科をはじめ様々な教科で授業の終わりに学習の振り返りを短く書くなどである。短時間・少量で文章を書くことを日常的に継続していくことで、記述力を高めていく。また、授業の中では文章構成や書き方の工夫を繰り返し確認するとともに、学習のまとめでは学びを生かして取り組めるような成果物や内容に取り組んでいく。

5 次年度の数値目標

「書くこと」の領域では、区の平均と同程度か下回っている学年があった。学校全体で「書くこと」の指導を定期的に取り入れ、全国の平均以上・区の平均と同程度を目指す。またその他の領域も、全国の平均以上・区の平均と同程度を目指す。

社会の結果

1 各教科の定着状況についての概要

学年ごとに定着状況の差が見られるが、第5学年を除き、基礎的・基本的な知識、概念が平均的に身に付いていることが分かった。全学年を通じて見られる傾向として、複数の資料を比較したり、資料から考えられることを自分の言葉で説明したりすることなど、知識・技能を活用することが課題となっている。

そこで、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させる必要がある。各学年に応じた、習得すべき複数の資料から必要な情報を集めて読みとること、社会的事象の意味を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを述べることの改善を図っていく。

2 具体的な本校の課題

領域	4年
安全な暮らし	教科書内で使われる語句は覚えているが、その説明ができずに得点に繋がられない問題がある。
市の様子の移り変わり	鉄道や高速道路の登場など、国内で起きた様々な変化を、順に整理できていない。時代の変化を「過去の出来事」と一括りに認識しているため、前後関係が分かっていたりしていない。

領域	5年
全領域	すべての項目において全国平均と区平均を上回る。発展的な問題や記述問題にも対応できる力をつけることが求められる。

領域	6年
国土の自然環境と国民生活	資料から読みとったことを文章に表す力に課題がある児童が半数以上いた。資料を読みとるだけでなく、人々の様子や思いを想像して自分ならどうするか等、当事者意識をもたせていくことが必要である。

3 課題の原因として考えられること

各学年の課題の共通点は、資料読み取りの力が高く、日々の学習の成果が出ていることがあげられる。継続して取り組ませたいところである。しかしながら、学年によって無回答は少ないのだが、類型外誤答が多いということで、確実な知識の定着が求められる。社会的事象のもつ側面を理解し、様々な立場から考察して問題解決を図る経験が浅いからだと考えられる。全学年を通して社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察できるようになることを目指した指導が求められる。

4 課題解決の方策

- ・4年生…資料を正しく読みとる練習をくり返し行う。資料から読みとれることを考え、なぜそのようなことが起こったのか、理由を説明できるようにしていく。必要な知識を得ていくことだけでなく、自分の考えをもったり、理由を考えたりする時間を多く確保していく。
- ・5年生…提示された資料を活用して解く問題が課題である。グラフなどの資料から考察されることを文章で表現する学習を日頃から行っていくことが大切である。
- ・6年生…グラフを正確に読みとることができるよう単元のまとめを工夫する。縦軸と横軸が何を表しているのか、どのような変化を表したもののなのかを正確に理解し、説明できるようにする。また、確実な知識の定着を図る必要があるため、毎回の授業時の復習や既習内容の繰り返しの質問提起をすることで対策をしていく。

5 次年度の数値目標

第4・6学年

(現状) 6割の領域で全国平均を上回るが、全領域で区平均を下回る。

(目標) 全領域において全国平均を上回り、品川区平均と同程度を目指す。

第5学年

(現状) 全領域において全国平均・区平均を上回る。

(目標) 全国平均・品川区平均をともに達成することは継続して目指す。

記述問題での正答率を区平均+10%を目指す。

算数の結果

1 各教科の定着状況についての概要

算数は、2年生は、「測定」領域は全国および区平均を上回り、その他の領域は全国および区平均を下回った。3年生は、「図形」領域は全国平均を上回って区平均とは同等、その他の領域は全国および区平均を下回った。4・5年生は、どの領域も全国および区平均を上回った。6年生は、どの領域も全国平均を上回ったが区平均を下回った。

2 具体的な本校の課題

	2年	3年	4年	5年	6年
数と計算	文章題に出てくる「ことば」に着目し、キーワードを意識することで問題を読み解くことに課題が見られる。	複雑な計算問題に課題である。	□を使った文章問題を表した図の構造を捉えることに課題がある。		計算はできるが、「示された式になる文章題を作る」問題の理解が不十分である。
図形	図形の合成や分解を理解することに課題が見られる。	正しく線を引いたり、正しく長さを測ったりすることに課題がある。	正三角形を正しく作図することに課題がある。ある時刻と時刻の間に時間の求め方や1分=60秒の関係を理解することに課題がある。	ひし形の作図の手順を理解していない児童がいる。	
測定		定規のきまりや扱い方の理解が不十分である。	ある時刻と時刻の間に時間の求め方や1分=60秒の関係を理解することに課題がある。	分度器を使って、目盛りを読み取ることの理解が不十分である。	
データの活用					グラフから数を読みとることの理解が不十分である。また、問題文に示されているものがこのデータにあるのかを理解が不十分である。
変化と関係					

3 課題の原因として考えられること

学校全体の傾向として、「図形」領域、特に作図に関する課題については、正しい手順の理解や繰り返しの学習による定着が不十分であることが考えられる。また、文章問題の内容を正しく理解できていないという課題については、問題内のキーワードに着目することや、文章から図をイメージして正しい立式へとつなげる学習が、より必要であると考えられる。

4 課題解決の方策

- 2年生
- 「図形」では、実物を動かして「回す」「ひっくり返す」等の操作をしたり、タブレット端末で図形を捉えたりする活動を導入していく。また、「角の数」や「辺の長さ」などに着目することで理解を深めていく。
 - 「数と計算」では、文章題に出てくる「ことば」に着目し、キーワードを意識することで問題を読み解くような工夫を考える必要がある。例えば、たし算では、「合わせて」「みんなで」、ひき算では、「のこりは」「ちがいはどのくらい」といったようにキーワードを教室に掲示して、感覚を養うようにする。日常生活で計算する機会を増やし、文章題を解く力の向上につなげていく。
- 3年生
- 「数と計算」では、基本的な計算問題に取り組みさせるのと同時に、複雑な計算問題に触れる機会を多くもたせたい。また、不等号を使った問題にも取り組みせたい。
 - 「図形」では、定規の正しく使うことができていないため、様々な教科でノートを記入する際に定規を使う機会を増やしていく。定規に慣れ親しむことで、作図や長さを測る際に正しく扱えるようになる。教師が手本となり、各授業で定規の扱い方を指導していく。
 - 「測定」では、ものさしの途中の目盛りから始まる長さを読み取ることに課題がある。まず、1目盛りがどれくらいの大きさかを理解させる。そして、どの目盛りも間隔が同じことから、どこからでも測ることができるとも気付かせたい。
- 4年生
- 計算能力だけでなく、問題に書かれている内容を理解し、求めるべきことを確実に理解する力を身に付ける必要がある。図形の性質や条件を正しく理解した上で、正確に作図ができるようにする。作図する手順を友達同士で説明し合う時間を確保し、理解をさらに深めていく。どの学習も単元で終わらせるだけでなく、家庭学習等復習する機会を設けて、反復学習をすることで起訴の定着を図っていく。
- 5年生
- 分度器の使い方を繰り返し確認し、測定・作図の練習機会を確保する。また、実生活や図形問題の中で「どのように角の大きさを調べるか」を自ら考える場を設ける。学習活動を通して、角の大きさの意味や測り方を理解し、分度器を使って正しく測定・作図できるようにする。
- 6年生
- 確実な知識の定着のみではなく、学習したことを生かして、文章問題を解くことができる実践的な力が求められる。日々のプリント学習やICTを活用した個に応じた指導の定着を高め、実践的な力を身に付けさせていく。

5 次年度の数値目標

全ての項目で、区平均・全国平均を上回ることを目指す。

1 各教科の定着状況についての概要

理科は、「生命・地球」「物質・エネルギー」の2つの領域から出題された。4・5年生はどちらの領域も区の平均を上回っていた。6年は「生命・地球」の領域は、区の平均を上回っていたが、「物質・エネルギー」の領域では、区の平均を下回っている結果となった。6年は、昨年度どちらの領域も下回っていることを考えると、定着度は上がってきていると考えられる。

2 具体的な本校の課題

	4年	5年	6年
物質・エネルギー	じしゃくのひみつ 豆電球と回路	物の体積と温度	物のとけ方 ふりこのきまり
生命・地球	しぜんのかんさつ	月と星	魚のたんじょう 天気の変化

3 課題の原因として考えられること

1. 領域ごと

「生命・地球」領域では、主に「観察」活動を通じて学習を進め、自然の事物について実感を伴った理解を図っていく。「物質・エネルギー」領域では、主に「実験」活動を通じて学習を進めていく。実験器具を用いることが多いが、教師による演示実験、または、実験動画を見て学習を進める単元も見られた。そのため今後は、器具を操作しながら提示することで、現象への理解や知識の定着を図っていく必要がある。

2. 評価項目ごと

「思考・判断・表現」では、生活に関連付けて考察することが難しい児童が多数いることが推測できる。「知識・技能」は、黒板に書かれたことや教科書に書かれていることを理解できないままの児童がいること、学習のまとめを書き写すだけで終わってしまっている児童がいることが考えられる。「主体的に学習に取り組む」では、観察・実験を行う際に器具の操作を十分に行っていないことや、その器具が実験にどのような役割を担っているのかが分かっていないことが予測できる。

上記「思考・判断・表現」「知識・技能」「主体的に学習に取り組む」の根本になることが「学びに向かう態度」である。「自分が知りたい、学びたいから実験・観察をする（自分事の学びをする）」ことが理科的学習につながっていくと考える。

4 課題解決の方策

- ・4年生…授業の最初に理科で使われる用語の意味を確認し、ノートやプリントにまとめる。毎時間、授業で分かったことや、予想や考察を自分の言葉で文章に表す時間を確保する。実験や観察の結果を絵や文章で表し、問題に対する結論は、どんなことが聞かれているか正しく捉えられるようにする。その際、同じグループや友達の表現と比べながら適切な表現方法を取り入れる機会を十分に設定する。
- ・5年生…実験結果を考察する際に、自分の考えや既習事項と関連付けて学びをまとめる習慣を身に付けさせることや、活用問題に取り組ませることで、学びの補充を行っていくことが重要であると考えられる。
- ・6年生…実験方法や、結果など、知識のみを定着させるのではなく、なぜこのような結果になったのかを考えさせ、問題、実験、結果の因果関係を説明できるようにする。そのために、実験方法を自分たちで考えたり、結果を予想したりするなどの活動を行っていく必要がある。

5 次年度の数値目標

3学年とともに大体の項目で区・全国の平均を上回っていたので、課題となる単元を理科の時間を使って復習し、さらなる定着を図る。次年度も区・全国の平均を上回ることを目指す。学校全体として、予想や実験などの因果関係をしっかりと理解すること、予想や考察の際に自分の考えを文章にまとめることを意識させた授業を展開することが数値上昇につながると考える。6年生に関しては、下回っていた単元と関連性のある単元を学習する際に、復習を行ってから導入を行う等の工夫をする。

1 各教科の定着状況についての概要（6年のみ）

英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」から出題された。すべての領域で、区の平均正答率を下回り、全国平均を上回っていた。しかし、例文を参考にしながら簡単な語句や基本的な表現を用いて英作文を書く問題においては、全国平均よりも高い正答率が見られ、文法の基本的なルールや簡単な英単語の意味を理解できていた。

2 具体的な本校の課題

	6年
聞く	区平均は下回っているが、全国平均は上回っている。 (校内83.5%・区85.7%・全国80.3%)
読む	区平均は下回っているが、全国平均は上回っている。 (校内80.1%・区85.2%・全国79.4%)
書く	区平均は下回っているが、全国平均は上回っている。 (校内83.7%・区86.5%・全国80.1%)

3 課題の原因として考えられること

示されたアルファベットの読み方を選ぶ問題において全国平均よりも低い正答率となったことから、発音の違いを聞き取る力が弱いと考えられる。毎回の学習で聞き取ったアルファベットを書く学習はしているが、“T” や “V” など他のアルファベットと音が混同しやすいものリスニングに課題が見られた。

4 課題解決の方策

毎回のリスニングの活動で、他のアルファベットと音が混同しやすいものを中心に取り上げる。また、アルファベットや英単語などの発音を学ぶ際には、口の形や舌の動かし方をよく確認して、より英語に近い発音となるように指導する。また、低学年の段階からアルファベットの音の違いに注目させ、発音していく。

5 次年度の数値目標

全ての項目で、区平均を上回ることを目指す。